

腐ったみかん

みかんを知らない人はいないだろう。みかんは冬の季語でもある。

こたつに入って、テレビを見ながらみかんの皮をむく。

そんな姿はよく見られる光景だ。

ねむさうに むけるみかんが 匂うなり 長谷川春草

また、みかんを箱で買う家も多いことだろう。冬場になればみかんの段ボール箱が山積みになっていることもよくある風景だ。その昔はみかんもリンゴも木の箱に入れられていたものだ。

木の箱に 轟々ありし かたち蜜柑に 篠原 梵

ところで箱に入れてあったみかんが腐っていたという経験はないだろうか。みかんも生もの、ほっておけば腐る。箱の中のみかんが腐り始めていたときどうするだろうか。

ふつうはその腐ったみかんを捨ててしまう。もちろんそのみかんの食べられる部分は食べるだろうが...腐った部分はとにかく早く捨ててしまう。

しかし、腐ったみかんを捨てるのはなぜか？なぜなら、腐ったみかんは次々と他のみかんを腐らせてしまうからだ。ほっておけば、次々とみかんが傷んでいく。仕方がないので、もったいないが、その腐ったものを早く処分してしまう。そうすることによって、他の多くのみかんが腐ることはなく助かるからだ。そのままほっておけば、すぐに箱全体のみかんが腐ってしまうからだ。

これを学級にたとえてみよう。時々クラスの中に腐ったみかんがある。人をみかんにたとえて失礼な！と思うかもしれないが、しかし、それは箱のみかんと同じことが起こるからだ。ひとりの腐ったみかんが次々とまわりのみかんを腐らせていく。そんなことがよくあるからだ。

たとえば、次のような腐ったみかんを見たことはないか？

学校へお菓子持ってきて、これ食べんかと誘うやつ

掃除くらいさぼれと言うやつ

どうせ誰にもわからんから、やろうじゃないかと言うやつ

一緒に万引きしようと誘うやつ

万引きするから見張り役になってくれと言うやつ
ここに置いてある自転車に乗って帰ろうと誘うやつ
勉強なんかいいから一緒に遊ぼうというやつ
おい、おまえもタバコ吸ってみるかと言うやつ
あいつをいじめてやろう、無視してやろうと人に言うやつ
一緒に授業をさぼろうと誘うやつ

これらはみんな腐ったみかんである。

君のまわりに腐ったみかんはないか？

そしてなによりも**君は腐りかけていないか？**

腐ったみかんにくっついて、君も腐りかけていないか？

また、なによりも問題なのは次のことだ。腐ったみかんは箱から取り出して捨てればすむ。そしてあとのみかんは助かる。しかし、クラスの中の腐ったみかんは捨てるわけにはいかないのだ。君は腐ったみかんだから、学校へ来ないでくれ、よその施設に行ってくれ、警察に行ってくれ、とそんなわけにはいかないのだ。

自分で腐った部分を切り捨ててもらうしかない。そしてまともなみかんへと自己再生してもらうしかないのだ。

だが、**人間にはそれができる**のだ。腐った部分を切り捨てて、**香り高いみかんへと再生することができる**のだ。

腐りかけたみかんにくっついて、少し腐りかけている君も、早く腐りかけている部分を切り捨てなければ、すべて腐ったみかんとなってしまう。

だからできるだけ早く腐った部分を切り捨てて、自己再生をしてもらうしかないのだ。

これは、早ければ早いほうがいい。遅くなればなるほど自己再生が難しくなる。

願わくば、この学校には腐ったみかんが1つもないような、そんな学校にしてほしい。一人一人がさわやかな香りを放つようなそんな集団であってほしい。

腐りかけたみかんよ自覚せよ！

腐ったみかんよ再生せよ！

をとめ今 たべし蜜柑の 香をまとひ 日野草城